

レファレンス だより

2011年4月号
No. 101

福岡市総合図書館
図書サービス課 相談係
☎092-852-0632



レファレンス・サービスとは、情報を求めて来られた利用者に対して、図書館の資料等を活用して、必要としている情報を探すお手伝いをするサービスのことで、法律相談や物品鑑定などといったお答えできない質問もあります。また、質問によっては回答に日数がかかるもの、資料や情報が提供できない場合もありますのでご了承ください。

■レファレンス受付件数（2011年1月分）

参考	人文	社会	自然	郷土
91	1,843	447	383	318
国際	国連	こども	ポピュラー	合計
491	123	773	887	5,356

（開館日 23日 一日平均 232件）



今月のレファレンス徹底解説！

Q：福岡市の旧町名“ハマノマチ”に、黒田家の別邸があったと聞いたがどのあたりか？“ハマノマチ”の由来や、別邸について書かれた資料も見たい。

■地名辞典で“ハマノマチ”を探す

『角川日本地名大辞典 40 福岡県』（角川書店 1988年）2階 C11 R291.03/カ

「はまのまち 浜町〈中央区〉」の項。江戸期～昭和39年の町名。江戸期は福岡城下の1町で福岡城の北東に位置。元は「烟草町（煙草町）」といったが、しばしば火災が起きたため浜町に改名。町名は「町の北方が海岸の砂浜であったことによると思われる」、「昭和39年舞鶴1～3丁目となる」とある。

■一般資料

『大名界隈誌』（柳猛直・財部一雄/著 海鳥社 1989年）閉架書庫 219.1/ヤ

「舞鶴一～三丁目」の項目で「黒田家の別邸建設」について、「維新以来、城は陸軍の兵営になっており、黒田家の歴史が福岡から姿を消してしまうことになるかもしれないというので浜町に別邸を建てて家宝、記録の類をここに収めること」になり、城の武具櫓、潮見櫓が移されたと説明。昭和20年、別邸は海軍士官の宿舎になっていたが、6月19日、空襲の焼夷弾で母屋や武具櫓は焼け「奇跡的に焼け残った」潮見櫓は後に城内に移された。

『福岡町名散歩 改訂版』（井上精三/著 葦書房 1996年）1階ポ77 291.91/イ/カ外

「浜町」の項。「福岡六丁筋のひとつ本町の北にある」民家48軒（元禄3年）の町。「多葉粉（煙草）町」とも呼んでいたが度々の火災のため、町の裏が美しい砂浜だったことから浜町に改名。「町の岡側は町家」で「浜側は上級家臣の下屋敷があり、明治になって旧藩主黒田家は家臣の屋敷を別邸とした」。大正には大修築が加えられ、場内にあった搦手門、武具櫓、潮見櫓が別邸に移されたが、空襲で全焼。焼け残った潮見櫓は「再び城内下ノ橋大手門わきに移され、県の文化財に指定された」。町名は「舞鶴三丁目」と改称された。

『福岡市歴史散策』（福岡地方史研究会/編 海鳥社 2005年）1階ポ77 291.91/フ/カ外

「黒田家浜町別邸跡」の簡単な解説と「黒田家浜町別邸跡碑」の写真あり。地図で碑の場所が分かる。

■雑誌記事

福岡県立図書館HP【<http://www.lib.pref.fukuoka.jp/>】>「郷土資料室」>「データベース」>「郷土関係雑誌記事索引」でキーワードに“別邸”を入力し検索。

『ふるさとの自然と歴史 2011年1月号』（歴史と自然を守る会）1階雑83 に「黒田別邸の四季」の記事。

大正・昭和にかけて30余年別邸に勤めていた父を持ち、別邸内で育った筆者による記述。場所は「中央区舞鶴1～3丁目あたり」、福岡市消防本部横の駐車場の一角に「黒田家濱町別邸跡」の碑が立っている。

■郷土資料の新聞クリッピング

特集記事「町名物語 ルーツわが町」>「舞鶴1～3丁目」の連載36回目に「黒田家の別邸建設」の記事あり。

■インターネット情報

福岡市HP【<http://www.city.fukuoka.lg.jp/>】>サイト内検索“黒田家別邸”

“黒田家別邸跡碑”のタイトル記事に、解説文と石碑「黒田家濱町別邸跡」の写真あり。石碑は、舞鶴3丁目にある福岡市消防本部横の駐車場の一角に立っている。「地図を表示（福岡市Webまっぷへ）」のアイコンをクリックすると地図上に石碑の位置が表示され、場所は「福岡市中央区舞鶴3丁目9」と分かる。



その他にもこんな質問がありました

Q：中国の科挙の試験がどんな場所で行われていたか知りたい。

■科挙関連

『科挙 改版』（宮崎市定/著 中央公論新社 2003年）分館所蔵 B322/ミ

試験場は貢院といい、ちょうど一人だけ入れる独房が蜂の巣のように何千、何万と集まり、その一つずつが既のような長屋の形に連続したものとある。貢院の全景の写真や内部の図、平面図あり。

『科挙史』（宮崎市定/著 平凡社 1987年）2階東洋文庫 322.22/ミ

南京貢院の各部屋内部の図があり、各部屋はわずかに身を横たえることができる広さで、板の机と腰掛が備えられている。この部屋は、号坐、号舎、号房などと呼ばれる。北京貢院の全体図もあり。

『科挙の話』（村上哲見/著 講談社 1980年）閉架書庫 322/ム

表紙には科挙の合格発表の掲示を待つ様子の絵あり。

■中国史関連

『科挙と官僚制』（平田茂樹/著 山川出版社 1997年）分館所蔵 222/ヒ

表紙には、皇帝が問題を出題し皇帝の面前で受験生を試験する「殿試」の絵、裏表紙には合格発表風景の絵がある。

Q：2千円札が発行された経緯や、あまり普及していない理由について書かれた資料はあるか？

■紙幣の歴史

『日本紙幣収集事典』（原点社 2005年）2階D6 R337.21/ニ

2千円札は、小淵内閣組閣の翌平成11年末に2000年紀のメモリアルとして発行が公表され、平成12年7月19日発行された。従来のように、金融機関から発行の要請があったのではなく、国民のニーズでもなかった。紙幣の図柄が首里城の守礼門であり、発行が沖縄サミットに照準を合わせていたこともあり、「サミットの演出」であったと判断せざるを得ないと書かれている。

■新聞記事

朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱ」でキーワード“2千円札”を入力し検索すると、以下の記事がヒット。2010年7月20日夕刊1面“2000円札復権、願う沖縄「守礼門、平和の象徴」発行10年、大部分は日銀在庫”の見出し。「日本銀行によると、流通量は2004年8月がピークで5億1300万枚」だったがそれ以降は減少し、2010年6月には1億1100万枚、流通割合は1%にまで落ち込んだ。発行当初は2千円札を使える現金自動出入機（ATM）設置の遅れなどが指摘されていたが、現在はおおむね解消されたという。日銀担当者は「使い勝手が悪い印象が広がってしまった」と話す。一方、沖縄県内での流通量はほぼ右肩上がり。平和のシンボルともされる守礼門が描かれた「平和希求紙幣」の復権を願い、さまざまな取り組みが続いているとの記事が載っている。

■雑誌記事

『数学セミナー 2008年5月号』（日本評論社）閉架書庫

日本は奇数を信仰する文化があるため、2千円札が流通しないとの説が挙げられている。

Q：LEDや街路灯の市場動向を知りたい。関連企業の一覧もあれば見たい。

■年鑑

『デジタル家電市場総覧 2010』

（日経マーケットアクセス編集/編集 日経BPコンサルティング 2009年）2階C3 R545.88/テ/ビヅ叔2

世界のLED照明市場は2012年度に急拡大し世界で4700億円規模になると予測。照明向けの白色LED市場、台湾LEDメーカーの業績について市場動向や解説あり。LED照明の利用意向調査の結果も掲載されている。デジタル家電市場の現在と、今後の方向性をみることができる。

『電子部品年鑑 2010』（中日社 2010年）2階C3 R549.09/テ/ビヅ叔2

「発光ダイオード」の章に、通信用LED、表示用LED、光源用LED、照明用LED、自動車用LED、白色LED、紫外LEDの製品動向あり。市場、業界のコメントも掲載されている。

■発光ダイオード関連

『LED 照明信頼性ハンドブック』(LED 照明推進協議会/編 日刊工業新聞社 2008 年) 2 階 E15 549.81/E
LED 照明推進協議会会員企業一覧あり。

■雑誌

『照明学会誌 2010 年 4 月号』(照明学会) 2 階 MII-4

LED 照明特集号。記事「LED 照明の現状と将来」あり。

『ビル設備管理ガイドブック 2011 年版』(オーム社) 2 階 MII-6

特集「そこが知りたい! LED 照明」の中に「LED 照明製品メーカーリスト」あり。

■インターネット

「半導体・FPD・グリーンエネルギーの総合情報サイト」【<http://www.semiconductorjapan.net/>】
>「特別調査レポート LED/有機 EL 照明市場」で数年前の情報ではあるが「LED 照明市場動向概論」
「LED デバイス日本メーカー動向」の記事が閲覧できる。

Q: 備前焼の“窯印(かまじるし)”とはどういったものか。一覧で確認できる資料はあるか?

■陶磁辞典

『角川日本陶磁大辞典』(矢部良明/編 角川書店 2002 年) 2 階 C13 R751.1/カ

窯印とは製品や窯道具に刻まれた簡単な選別標識のこと。複数の工人の製品を同一の窯で焼成する際に、各自の製品を区別する目的でつけられたもので、桃山時代までは備前をはじめ各地の窯業地で用いられたとある。

■日本陶磁関連

『備前焼の魅力探究』(黒田草臣/著 双葉社 2000 年) 1 階ポ 62 751.1/ク

備前では共同窯の時代に、土や燃料の手配から販売にいたるまで分業が行われ量産が可能となり、窯出し時のトラブルを避けるため窯印を入れる習慣が徹底した。陶工は自らの作品の証としてのサイン(窯印)を入れたが、これは現在のように自己の作品を主張するためのものではなかったとある。

『古備前大事典』(吉村佳峰/[編]著 吉備人出版 1999 年) 2 階 B18 751.1/コ

古備前研究の第一人者による研究成果と鑑定方法の集大成。窯印については、共同大窯が築かれた室町時代末期・桃山時代から見られ、この印から時代を知ることできるとある。室町時代末期からの窯印の一覧や古備前の名品 87 点の写真あり。

Q: 日本文化について外国語で簡単に紹介しているものがあるか?できれば対訳本で。

■英語

『英語で日本紹介ハンドブック』(松本美江/著 アルク 2009 年) 2 階 A20 F100ENG/302.1/MA

日本文化を解説しながら、外国人が日本や日本人に関する事項で、日本人が想像もしないような意外な質問 150 を回答と共に紹介。

『イラスト日本まるごと事典(改訂第 3 版)』(インターナショナル・インターソップ・フロンラム/著 2010 年)

2 階 A20 F100ENG/291/JA

イラストを多用し、分かりやすく日本文化を紹介。生活の各場面の解説も多い。

『英語対訳:外国人に教える日本の伝統文化』(山本素子・伝統文化研究会/著 はまの出版 2000 年)

2 階 A20 F100ENG/772.1/UN

日本の遊び、伝統芸能、演芸、武術を紹介。

■中国語

『中国語対訳で紹介する日本のすべて』(陳淑梅/著 日本文芸社 2010 年) 2 階 A20 F100CHI/291/CH

写真を多用し、日本の文化、地理を紹介。巻末には簡単な日中会話集もある。

■フランス語

『日本文化をフランス語で紹介する本』(小倉田子・ヒュマンコム/著 ナツメ社 1999 年)

2 階 A20 F100FRE/291/OG

日本の年中行事、生活様式、社会生活、伝統文化など写真を使って紹介。

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月の一冊！

『社会生活六法：手続・書式編 1・2』

(手続・書式研究会／編集 新日本法規出版 1996～) 2階D5 R327.03/シ

日常生活において、届出や申請、契約など文面の作成が必要となることがあります。たとえば結婚、出産、死亡など人生の節目に必要なもの、エコポイント申請、独立開業や特許など事業に関するもの、飼い犬の登録申請やパスポート取得など意外に多いものです。しかし、いざとなるとその手順や書き方、添付書類や提出先など戸惑うことが少なくありません。

この本は、手続の方法や具体的な記入例が記載されています。また、加除式といって、法令の改廃により内容が変更された場合は差し替える方式で、最新の情報をご覧いただくことができるようになっています。

使ってみました！⇒“隣地の木の枝が境界線を越えているので、所有者に枝を切ってもらいたい”
第1巻の第4章「隣近所・生活環境に関する手続」の中に「越境樹林切除の要望書」として紹介があります。作成書類の文章例や作成に印鑑が必要であること、根拠法令等もあります。また、枝の切り取り請求に応じてくれない場合はどうするか、竹林の根の境界線を越える時は、自分でその根を切り落としてもよいなどの具体的な紹介もあります。



図書館活用術 ～九州国連寄託図書館資料について～

福岡市総合図書館の2階には国連資料を専門に取り扱う「九州国連寄託図書館」が併設されています。国連の活動を世界の人々に伝えるため、無料で一般公開され、刊行物や会議録などを自由に見ることができます。公共図書館内にある国連寄託図書館は、九州ではここだけです。

資料は国連主要機関の公式記録や活動状況等を説明するもの、国連ハビタット福岡本部（アジア太平洋担当）の資料もあります。所蔵数は図書 34,000 点あまり、雑誌等 400 種を所蔵しています。

図書は主題別分類に分かれています。例えば、「アジア各国の経済や社会状況がわかる国連から出された資料が欲しい」場合は、書架 A3 に掲示している「国連主題別分類」を参照すると「アジア経済 002.06」とあります。仕切版についているオレンジテープの番号「アジア経済 002.06」の棚にある年鑑や白書などの資料から、状況や統計値を調べることができます。

また、インターネットや館内端末機（OPAC）からでも資料は探すことができます（一部除く）。資料は館内閲覧と複写が可能です。2階カウンター3(国際資料カウンター)では調べもののお手伝いをしていますので気軽にお立ち寄り下さい。一緒に資料を探しましょう。

資料情報票

Statistical Yearbook for Asia
and the Pacific, 2009

タイトルコード: 1000000649491

状態 : 閲覧のみ

所蔵館 : 総合図書館

配架場所: 2階・国際・A2

請求記号: F002.06/10-01/'09

■ OPAC から印刷したレシートの見方 (例)

- ・ 配架場所: 「国際」は国際資料部門 (国連資料含む)
- ・ 請求記号の「F」は外国語資料
- ・ 「002.06」国連主題別分類 (アジア経済)
- ・ 「10-01」出版年-書名番号 (2010年の1番目の資料)
- ・ 「'09」シリーズ名・巻号 (2009年版)

■ 資料の探し方

- ・ 棚番号「A2」⇒主題別で分類されている仕切版についている オレンジ色のテープに書かれている番号「002.06」
⇒請求記号 (背ラベル)

■ 請求記号 (背ラベル) の見方 (例)

1 段目	002.06	主題別分類	…アジア経済
2 段目	10-01	出版年書名番号	…2010年の1番目の資料
3 段目	'09	巻号	…2009年版

資料が探せない時は RC3
カウンターにお尋ね下さい。